

2024年度（令和6年度）学校評価自己評価表

城西中学校区	校番23	福山市立 城西中 学校
最終更新日		2024 年（令和6 年）4月 1 日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 21世紀型“スキル&倫理観”	コミュニケーション力・表現力・忍耐力
○学習に対する取組みでは、各校とも児童生徒が意欲的に授業に取り組んでいる様子が見られ、一定の成果が出ている。 ○これまでできなかった様々な活動や行事ができるようになり、子ども達が生き生きとしており、楽しく学校生活を送っていると感じられる。 ●読書活動や書く活動など、小・中学校が連携して取り組むことで、児童生徒の読む力、表現力の向上を図っていくことが大切である。	○「子ども主体の学び」を目指し、小・中学校が連携して研究・実践を行い、授業改善を進めており、児童生徒の授業に対する意欲、積極性は高い。 ○行事等を通して、小・中学校とも集団づくり、児童生徒の主体的な活動に取り組んでおり、意欲的に頑張る児童生徒は増えている。 ●読書活動や書く活動の充実に取り組み、児童生徒の表現力を高める必要がある。 ●小・中学校が緊密に連携し、引き続き不登校生徒減少への丁寧な取り組みが必要である。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	地域に愛着と誇りをもち、心豊かにたくましく生きる子ども
		中学校区として統一した取組等	○自己肯定感を高める。(小中合同ボランティア活動・中学校オープンスクール) ○コミュニケーション力・表現力・忍耐力をつける。(校区公開授業研究) ○健康への意識を高め、体力向上を図る。 (体力向上の取組・体力テストの分析・生活改善の取組・校区保健だよりの発行)

III 自 校

ミッション	育成する力 21世紀型“スキル&倫理観”	コミュニケーション力・表現力・忍耐力
「明るく生き生きと安心して生活できる学校」をめざし、生徒、保護者、地域、職員が誇りを持てる学校づくり、全ての人から愛される学校づくり。	めざす子ども像 全学年	○自分を理解し、お互いを認め合い、高め合う生徒 ○自ら疑問や課題を見つけ、解決に向け、自分や仲間と考え、学び続ける生徒 ○自分たちの生活をより良くするために、仲間と協力し、粘り強く取り組む生徒
学校教育目標		
心豊かに、たくましく社会を生き抜く力の育成		
現 状	研究	テーマ 主体的な学びをめざした授業づくり PART II ～問題解決的な授業を通して～ 内容等 ・「逆さ論」単元末を見据えた構造的な単元指導計画の作成と評価・振り返りの充実 ・問題解決的な授業に3つの視点（主体的、対話的、深い学び）を取り入れた改善
<児童・生徒> ・「学校行事に主体的、積極的に取り組んでいる」 肯定的回答 89% 「学級での係活動を確実に取り組んでいる」 肯定的回答 93% 「学校生活は楽しい」 肯定的回答 83% 「私は、安心して学校生活を送ることができている」 肯定的回答 83% 学校行事や係活動等に対する主体性や積極性は育ってきている。しかし、自分たちの生活課題を自分たちで考え、仲間と協働し解決していこうという姿勢はまだ乏しい。 <授業・実践> ・各教科において、問題解決型の学習を軸に授業実践を行い、生徒が主体的に学ぶ学習を進めている。また、単元末を見据えた構造的な単元指導計画に基づいた授業づくり、振り返りシートの活用によって、系統性を持った指導や評価に取り組み、生徒の学力定着を図っている。生徒アンケートにおいて、「授業を通して、以前より学び方、考え方が身についた」「授業の終わりに授業で学んだことを振り返り、分かったことや分からなかったことを自分の言葉でまとめて書くことができた」と回答した生徒の割合は80%を超えている。しかし、「授業の予習・復習を積極的に行っている」「主体的に家庭学習に取り組んでいる」と回答した生徒の割合は 65%程度であり、学習したことをさらに深めようとする主体性や積極性に結びつけられていない。	めざす授業の姿	【主体的な学びをめざした授業づくり】 ・学ぶことに興味関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」をめざした授業づくり。 ・子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考え方を広げ深める「対話的な学び」をめざした授業づくり。 ・習得・活用・探求という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考え形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」をめざした授業づくり。

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 城西中 学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	70% 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	70% 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
6	生徒の学び意欲 の向上と学力の 確実な定着・向上	★	継続	生徒が主体的・協働的に学 ぶ授業づくり の推進 【小中一貫】	○全教科で、問 題解決的な学習 を行う。 ○単元末の総括 的な評価問題を 作成し、その問 題が解決ができ る単元計画を作 成する。	△全教科の定期試 験の通過率。 「知識技能60%」 「思考判断50%」 以上。 △学力の伸びを把 握する調査にお いて、「学力を伸 ばした生徒の割 合」を70%以上 にする。									
6	生徒の自己指導 能力(コミュニケ ーション力・表現 力・忍耐力)の育 成	★	継続	生徒の自主 的・主体的活動 の推進	○生徒と共に 創る学級・生徒 会活動と学校 行事の更なる 充実を図る。 ○リーダーの 育成(生徒会執 行部・学級委 員・部長等)を 図る。	△生徒アンケート で①「学級での係 活動を確実に取 組んでいる」②「学 校行事に主体的、 積極的に取り組 んでいる」と肯定 的に評価する生徒 を90%以上にす る。									
				誰もが安心し て生活できる 学級・学年集団 の確立	○学級・学年活 動、学校行事等 で生徒どうし をつなぐ取組 を充実させる。 ○保護者、地 域、関係機関等 との連携の強 化を図る。 ○面談ウィー クを実施する。 (学期に1回)	△新規の長期欠 席者(不登校)を0 名にする。 △生徒アンケート で③「安心して学 校生活を送るこ とができている」 ④「困ったときに 相談できる人が いる」と肯定的に 評価する生徒を9 5%以上にする。									

1	教職員が笑顔で元気に働ける学校	新規	教職員の働く意欲の向上	○教育の質向上の視点を持って点検・見直しを行い、業務改善を推進する。	△福山100NE N教育アンケート ①「仕事にやりがい」②「個性が認められている」で肯定的回答80%以上 ③「授業づくりにあてる時間がある」で肯定的回答70%以上									
---	-----------------	----	-------------	------------------------------------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。